

ほほえみ



第50号(平成29年3月)
発行：小山市教育委員会

「平成28年度人権に関する作文・イラスト・及びとちぎの高校生人権映像作品コンクール」(作文の部は今年度で36回目、栃木県主催)において、最優秀賞を受賞した作文を紹介します！

「高齢者も活躍できる新たな社会へ」

小山市立小山中学校 3年 瀬尾 賢信

「おじいちゃんは、もう二階の部屋には行けないね。」

寂しそうに祖母がつぶやいた。その言葉を聞いて私はショックを受けた。二階とは祖父の自宅の二階であり、祖父の部屋がある。そこに祖父はもう行けないというのだ。祖父は、しばらく腰が痛いと言っていたが、いつの間にか圧迫骨折をしていたのだ。高齢者には起こりやすい病気とのことだった。すぐに入院したが、腰は曲がってしまい、介護が必要となった。そして、自宅の階段でさえも上れなくなってしまったのだ。つい先日まで自転車に乗って、元気に散歩にも行っていたのに……。この急激な変容に、正直、祖父にかけられる言葉が見つからなかった。現実を受け止め切れなかったのだと思う。私が「高齢者問題」を身近に感じるようになったのはこの時からだ。

「高齢者問題」については、社会科の学習で耳にしており、大変なんだとは思っていたが、今思えば他人事のように感じていたのだと思う。まさか自分の家族にこんなにも早く、この問題がのしかかってくるとは夢にも思っていなかった。現実はず想像以上に厳しいものであった。今まで何の苦も感じることもなかった庭の飛び石のたった数センチの段差が、祖父にとっては小さな崖のように変わってしまったのだ。私も手伝って、祖父が歩く場所はできるだけ平らに、そして滑らないようにもした。また、玄関や家の中には手すりを設置した。祖父の部屋は一階に移され、介護用のベッドも用意された。祖父のためにあらゆる場所が改装された。私はこれまで、バリアフリーの実現がこれほどにも大変だとは思ってもいかなかった。健常者にとってはたったの一またぎで越えられるものが、高齢のために足腰が弱くなってしまった人にとってはとても大きな障害となるのだ。

このことがあってから、外出した際に、多くの場所でまだまだバリアフリーが行き届いていないと思う箇所気付くようになった。段差の多い公園や斜めになっている駐車場などだ。同時に、形だけのバリアフリーもたくさん見ることとなった。年月が過ぎて、雑草が生えてでこぼこになっているスロープや物が置かれっぱなしの点字ブロック。真のバリアフリーとは設置を整えることではなく、使う側の立場をどれだけ親身になって考えられるかなのだと強く感じるようになった。

中でも一番驚いたのは道路の構造だ。道路は、雨水がたまってスリップ事故を起こさないように真ん中が盛り上がっているのだ。足腰の弱い人や車いすの利用者にとっては渡るときに苦労することになる。一方にとっては良いことであっても、もう一方にとっては良いこととは限らない例を目の当たりにした。社会科は答えが一つではないと教員をしている父からよく聞いていたが、これもその一つの事象であり、多くの人々が考えていかなければならない課題なのだろうと感じた。

先日、日本人の平均寿命が更に延びたということをニュースで知った。このことは日本人が長生きとなつてうれしいことではあるが、これまで以上に高齢化が進むということだ。祖父のようにちよつとしたことで介護が必要となる高齢者はますます増えるだろう。健常者にとっては気付きもしないような段差や坂が、高齢者や障害者にとっては、大きな障害となることをこれまで以上に多くの人たちが知らなければならぬ時代がすぐそこに迫っているのだ。互いに思いやりの心で尊重し合いながら、どちらにとっても身体的・精神的に快適に暮らせるような世の中を創っていくことが大切だと思う。単なるバリアフリーではなく、心のバリアフリーも非常に重要なこととなってくるだろう。

祖父が高齢のために回復が思わしくなく、介護が必要になってしまったことは、正直、祖父をはじめ家族にとつてもつらいことだった。しかし、今後の日本の家族が抱えるであろう高齢者の問題をとつても身近に感じさせてくれる機会を与えられた点では、意味のある出来事だったと思う。高齢化社会の問題点について真剣に深く考えることができた。そして、高齢者を支えたいという家族の思いを感じ取ることができたように思う。

今回の経験から、私は一つだけはっきりと言い切れることがある。それは、体の自由が利かなくなった高齢者も、健常者と同じように、慣れ親しんだ家で暮らしたいし、家族に迷惑をかけないように自分でできることは自分でやりたいと強く思っているということだ。高齢者の介護はつらいことだと家族が思うのではなく、自分でできることはできるだけ自分でやってもらうことが高齢者の尊厳を守ることになると思う。これからの社会が、高齢者でも自分の力でできるというような施設やシステムをもっと作っていければ、高齢社会においても、総活躍社会に近づくのではないかなと思った。

※原文のとおり記載しています。



「おやまのよい子を育てる大人宣言」に照らして……

「小山市いじめ等防止市民会議」では、子どもの笑顔があふれる小山市を目指し、大人が考え行動する必要があるという考えから、平成25年に「おやまのよい子を育てる大人宣言」が採択されました。

【おやまのよい子を育てる大人宣言】

私たち大人は……

- 地域のイベントに進んで参加し、子どもと一緒にたくさん遊び、信頼を深め、学び合います
- 子どものよいところを見つけて声をかけて褒め、悪いことに気付いたら迷わず注意します
- 人の失敗を悪く言ったり、あざわらったりせず、励まし、助け合います
- 子どもが本音で話し合える時間をつくり、安心できる家庭にします
- 互いにためなものはダメと言える大人社会を築きます

※ご家庭やPTA、自治会等で話題にいただき、できることを皆さんで実行していきましょう。

小山市人権関連ホームページ

【小山人権の扉】をぜひご覧ください。
webで「小山人権の扉」で検索してください。

今回の『ほほえみ』はいかがでしたか？

皆様のご感想・ご意見を、ぜひお聞かせください。
e-mail: d-gakusyu@city.oyama.tochigi.jp